

47 A 32  
(47 A 681)  
(103 C 53)

特 許 庁  
実 用 新 案 公 報

実用新案出願公告  
昭37-21388

公告 昭 37.8.16 出願 昭 35.2.29 実願 昭 35-9746

出願人 考案者 田 中 喜 一 石川県河北郡津幡町字領家1

代理人 弁理士 松 井 順 孝

(全2頁)

パ ト ロ ー ネ 用 細 幅 織 物

図 面 の 略 解

第1図イ、ロは本考案パトローネ用細幅織物、第2図は同上の作製経過を示す、第3図は同上をパトローネに使用している状態を示す。

実 用 新 案 の 説 明

本考案はパトローネ等において遮光性パツキングとして使用する細幅織物の改良に関し、ビスコース人絹糸を地経糸として平地に織成すると同時に液体のうちから黒色染料を溶融して作成したアセテート糸をパイル経糸として纏絡織成した二重ピロードを上下の織物に切離しかつパイルのない部分を有せしめてなるものであつて、そのパイルが高度の遮光能力を有する共に地が金属体によく接着する優れた遮光性パツキングを提供し得るものである。

第1図は本考案パトローネ用細幅織物を示し、aはパイルを有する部分、bはパイルを有しない地だけの部分、cは織耳である。

本考案は二重ピロードに織成した後上下の織物に切離して製造せられるもので、第2図はこの切離す途中を示している。1は地経糸2は地緯糸で上下2枚の平地が織成せられ、これと同時にパイル経糸3が上下の地緯糸に纏絡織成され二重ピロードが織られた後中間より裁断されるが、パイル糸3には液体のうちから黒色の顔料を溶融して作成したアセテート糸を用い、地の経糸および緯糸にはビスコース人絹糸を用いるものとする。なお地の緯糸の方だけは他の材料例えばアセテート糸を用いる場合もあり、地の糸にも液体のうちから

黒色の顔料を溶融したものを用いる方がよい。

第3図は本考案をパトローネに使用した場合を示し、細幅織物はパトローネ金属板dのフィルム出入口部分に裏面においてのりで貼着される。

本考案は上記のごとく構成せられ、パイル糸として液体のうちから黒色の顔料を溶融して作製したアセテート糸を使用しているから、パイルは十分な弾力を有し、復帰力が強いと共に吸湿性が無く、かつ褪色することがないから、本考案織物をパトローネのフィルム出入口に遮光パツキングとして貼着した場合、フィルムの通過後直ちにパイルは直立状態を回復し高い遮光性を示すと共に、長くその遮光能力を持続する。

また地の糸としてビスコース人絹糸を使用しているから、パトローネの金属板と強く接着せられる特長を有し、パイルを有しない地だけの部分bはさらにこの接着を確実にすると共に、フィルムの引出抵抗を軽減し得るものである。なお細幅織物であるからcなる織耳を有して居り、このため広幅織物を切断してパツキングを作つた場合のように、地がほつれたりパイルがとれたりする惧れは無い。

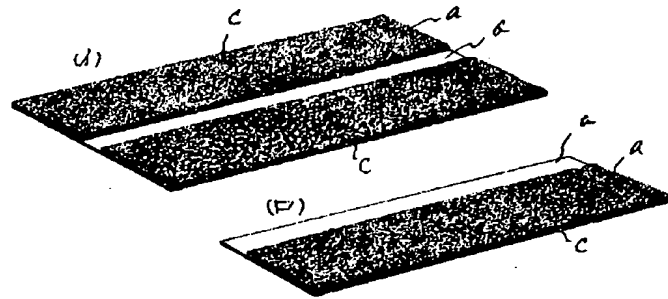
登 録 請 求 の 範 囲

ビスコース人絹糸を地経1緯2糸として平地に織成すると同時に液体のうちから黒色顔料を溶融して作成したアセテート糸をパイル経糸3として纏絡織成した二重ピロードを上下の織物に切離しかつパイルのない部分bを有せしめたパトローネ用細幅織物の構造。

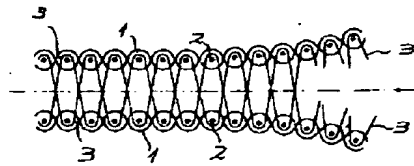
(2)

英公 昭 37-21388

第1图



第2图



第3图

